

プロジェクション・サイエンスの深化と融合

Projection Science: A Deeping Stage and Integration of Novel Research Areas

川合 伸幸[†], 米田 英嗣[‡]
Nobuyuki Kawai, Hidetsugu Komeda

[†]名古屋大学, [‡]青山学院大学
Nagoya University, Aoyama Gakuin University
kawai@is.nagoya-u.ac.jp, komeda@ephs.aoyama.ac.jp

Abstract

Projection Science is a new research field which explore mental processes of projecting internal representations to the "real" world. In this symposium, we will further explore various types of projection processes to gain deeper understanding. In addition, we intend to extend our research field to a novel research field such as philosophy or sociology.

Keywords — Projection Science, Psychosemantics, Embodied Cognition, Illusion, Psychosemantics

1. はじめに

2016, 2017年の大会でプロジェクション・サイエンスに関するオーガナイズド・セッションを開催した。2017年は100人を超える参加者があり、プロジェクション・サイエンスに関心が集まりつつある。これまでの企画は、プロジェクション・サイエンスとは何か、なにを目指すものかを説明するものであったが、今回のオーガナイズド・セッションでは、哲学者による招待講演とパネルディスカッションを企画し、認知科学以外の領域との研究交流をはかり、哲学や社会学との融合を目指す。

2. 目的

認知科学や心理学では、ヒトが外界についての表象を持つことを前提としている。しかし、環境内でさまざまな対象とかかわるためには、表象を外界に結びつける仕組みが必要である。その仕組みをプロジェクション（投射）と呼び、新たな研究の展開を目指してきた。プロジェクションが、これまでの認知科学や心理学と異なるのは、積極的に意味を見いだすことである。たとえば、墓石はただの石ではないが、縁のある人にとっては故人の表象を生み出す手がかりである。また、腐女子に見られるように、ただの男性同士の関係（上司と部下など）に、それ以上の恋愛関係をあえて見いだすなど、外界からの入力に意味を加えて、新たに環境を認識する。

それらのように、積極的に意味を付与する心の働きをプロジェクションの1つと捉え、それを成立させる要因や対象にはどのようなものがあるかを探求する。

3. 招待講演

「心的表象がいかにして世界の中の何かを『意味する』ことができるのか」ということは、認知科学を研究する上で重要な問題であるが、現在のところ十分な検討がなされているとはいえない。その原因のひとつとして、認知科学と深く関連した研究領域である、哲学や社会学分野との交流があまりなされてこなかったことがあると考えられる。そうした問題を解決するために、本オーガナイズド・セッション（OS）では、哲学者の戸田山和久氏を招き、認知科学分野ではそれほどなじみのないテーマである **psychosemantics** について講演をしていただく。**Psychosemantics** とは「心的表象がいかにして世界の中の何かを『意味する』ことができるのか」という問題であるが、この講演を聴くことで交流のなかった研究領域ではプロジェクションに相当するものがどのように捉えられていたかについて理解を深める。さらに、OSの最後に「世界に意味を見いだすプロジェクション」というタイトルで、戸田山氏や鈴木宏昭氏を含めた話題提供者とともにパネルディスカッションを行う。そのことで、プロジェクション・サイエンスが指し示すものを深化させるとともに、これまで交流が弱かった領域にもプロジェクションが伝わるように概念の整理を行う。

4. 公募発表

本OSの公募に対し10件の応募があり、企画者や発表候補者らとは独立の審査者による評価点にもとづいて5件を採択した。川崎・米田・船曳による「運動模倣における自閉スペクトラム症患者の自己視点方

略」（敬称および名前を省略、以下同じ）、佐藤・石原・小鷹「蟹の錯覚」における主体感の変調」、小鷹「立位・仰向け・うつ伏せ状態における主観的な重力方向の反転」、久保（川合）「投射の共有と遷移—二次創作のプロジェクション・サイエンス—」、都地・嶋田「感情が含まれた他者視線の印象形成に社交不安傾向が与える影響」である。

これまでのOSでの発表のように、視点・視線や主体感など、個人の感覚にもとづいた研究発表が多いが、自己の身体とはまったく切り離された（むしろ自身とは異なる性別の関係としての）二次創作としてのプロジェクションの研究もあり、プロジェクション・サイエンスとされる研究の裾野が広がりつつある。個別に聞くと、接点のなさそうなそれぞれの研究が、どのように関連し合うのかを確かめる作業によって、プロジェクションの実態がより明瞭になるのではないかと期待している。

5. パネルディスカッション

「世界に意味を見いだすプロジェクション」というタイトルでパネルディスカッションを企画する。ディスカッサントは3人を予定しているが、公募発表者からもディスカッサントを募り、合計6人程度でのパネルディスカッションを開催し、プロジェクションとはどのような心の働きであるかについて多角的に検討する。

参考文献

- [1] 鈴木宏昭 (2017) 「教育ごっこを超える可能性はあるのか? : 身体化された知の可能性を求めて」 大学教育学会誌, 39, 12-16
- [2] 鈴木宏昭, 岡田浩之 (2017) 「認知科学」, 『研究開発の俯瞰報告書 システム・情報科学技術分野 2017』. 科学技術振興機構研究開発センター
- [3] 鈴木宏昭 (2016) 「プロジェクション科学の展望」. 日本認知科学会第33回大会発表論文集.